

# しろい七福神 5月11日(日) 菖蒲まつり

折立菖蒲園で有名な来迎寺で5月11日(日)、恒例の「菖蒲まつり」が開催される。太鼓演奏、歌謡ショー、カラオケ・コーナー、模擬店、茶席、法話、地元産品や野菜の販売、ろくろ体験、餅つき、撮影会など催し物も盛り沢山。撮影会では、写真家の指導も受けられる。また、当日撮影した作品による展示会も後日行われる予定だ。会場では当日、「しろい七福神」7カ所分のご利益が受けられるという。時間は午前10時から午後4時まで。雨天決行。問い合わせは、しろい七福神まつり実行委員会(白井市商工会内/電話492・0721)へ。

## 若返り講座がスタート デイナーを楽しみながら月1回

毎月1回、旬の食材を使用したスペシャルデイナーを楽しみながら、日常の中で無理なく取り入れられる様々なメニューを教わり、年間を通して「体感」する。そんなアンチエイジング講座「ラ・キユイジー」が、4月21日、オーガニックカフェ「ワークス」(白井市富士)でスタート。女性のためのスペシャル講座を主宰するのは、TBSテレビの「カラダのキモチ」でも紹介された同店の森谷悦子さん。講師はアンチエイジング

研究の第一人者、白澤卓二氏(日本抗加齢医学会会長)が務める。時間は午後5時半から。【参加費】3500円(食事費込み・ワンドリック・レシビ付)【定員】25名。問い合わせは、ワークス(電話441・7784)へ。

## 「しろい七福神」の提案箱

文教民生常任委員長と「会だより」編集委員長として、初めての当初予算「市町村合併問題研究会」審議を行った3月が閉会



しました。ほっとしていると、白井市市民が、議会には様々な特別委員会・研究会があり、気を抜いてはいられません。私は「文教民生常任委員会」委員長の他に、「議

## 合併問題を考える

# 「白井市単独」の行政運営は可能か

「しろい七福神」の提案箱。文教民生常任委員長と「会だより」編集委員長として、初めての当初予算「市町村合併問題研究会」審議を行った3月が閉会。白井市市民が、議会には様々な特別委員会・研究会があり、気を抜いてはいけません。私は「文教民生常任委員会」委員長の他に、「議

## 白井パークゴルフクラブ 新会員募集中!

電話491・9704(田代)

## ブエノスアイレスの風を運ぶ アルゼンチン・タンゴの夕べ

白井音楽倶楽部

地域の仲間で作りました。  
しろいリフォーム  
白井市バリアフリー 住環境相談会理事  
TEL(047)492-8009

ゴの夕べを開催する。会場はオーガニックカフェ「ワークス」で、午後6時開演。会費2500円(ワンドリックと軽食付き)。問い合わせは、白井音楽倶楽部(090・84

## 国際交流協会 がホストファミリーを募集

白井国際交流協会は6月、アジア、中東、アフリカ、南米などから来日するJICA(国際協力機構)の技術研修生を招く。これに伴い、同協会ではホストファミリー12名を募集。期間は6月7日(土)午後4時~6月8日(日)正午までの1泊。研修生は英語を話すが、日本語はできない。また、次の参加者も同時に募集している。

研修生とバスで房総のむら見学(昼食つき)/10名募集  
【日時】6月7日(土)午前10時30分~午後4時【集合場所】白井駅前ロータリー(マルエツ側)【参加費】無料  
研修生との交流会(昼食つき)/若干名(日時)6月8日(日)正午~3時まで【場所】白井駅前センター【参加費】無料  
申し込み・問合せは、白井国際交流協会(電話492・6642/野口)へ。

## 博人館



子どもの地域交流を図る「白井市・月館町遊ばね会」は、今年活動20周年を迎える。創設時から世話役を務めるのが、清水口在住30年という黛いぐ代さん。「遊ばね会」では、福島県月館町と白井市の小学生が互いに訪問して4泊5日を共に過ごす。たとえば、まず月館町から小学生が白井にやって来るとしよう。5人ずつに班分けされ、それぞれに中学生のリーダーが付く。全体のリーダーは高校生だ。この日、全員が市の福祉センターに泊まり、2日目はボランティア宅に数人ずつ民泊する。翌朝、再び集合し、今

## 子どもたちの地域交流を世話して20年目の「ママ」

流に進展した。人数が増えたこともあり、バスを仕立てて月館に直行できるようにもなった。体験者がリーダーとなり、さらにリーダーとなって自主的に活動する伝統が自然に築かれた。初めは、2、3年のお付き合いだったと思う。20年目を迎えた。「肩肘張らず、自然体でやってきたのが秘訣でしょうか」と黛さん振り返る。が、「事故やケガがあったら大変。だから、しっかりと見守る。でも、口は出さない」をモットーにしてきた黛さん。遊ばね会の参加者や父兄から「ママ」と慕われている。黛さんは昭和28年(1953)8月、月館で生まれ、満鉄職員だった父親は終戦の翌年、満州から故郷に引き上った。黛さんが3歳父は退職を辞し、一家を引き連れて上京する。黛さんは高校から専門学校へ。卒業後に就職して夫の泰次さんに出会った。もう38年目のオシドリ夫婦だ。今年8月2日に月館町の小学生が白井にやって来る。「だから、今から民泊先を探さないと。子どもが巣立った夫婦も、昔の子育てを思い出して、子ども達の世話をしてみたいですね」

葛城地域でも「政令指定都市」に向けての協議会等を開催しています。道州制も議論される中、合併問題は、避けないにせざるを得ない。早い時期から調査研究を行い、市民の皆様の見聞も拝聴しながら、合併問題を論議していく。その中でこれからの白井市の将来像を模索していきたいものです。さて平成16年の住民投票で示した合併に対する我々住民の意志は、市単独行政の維持でした。急激な高齢化を向かえる白井にとつて、はたしてそれが可能なかどうか。これからの市の行く末を見極めていかなければなりません。

「母べえ」上映  
シネマサークル  
白井シネマサークルは5月4日、白井市文化会館で第19回上映会を行う。今回、上映されるのは、吉永さゆり主演の「母べえ」(山田洋次監督)。開演午前10時半(開場10時)。入場料千円。問い合わせは、(筒工ヌ・アイ・エス)フリーダイヤル0120・0843・94)

月館町出身で、従兄弟が月館町に住んでいることから、黛さんに地域交流の橋渡し役がまわってきたのが、そもそものきっかけ。2男1女の子育てに専念して、PTA役員を歴任して横の繋がりが広がった黛さんの声掛けに、小5の次男を含め18人の小学生が集まった。「夫が休みを取り、福島まで子どもたちを引率したんです。で、月館側の迎えにきた担当者に引き渡す。帰りはマイク

夫の経営する会社の役員を務め、毎日都心に通勤する黛さん。民生委員も3期目になった。